

あいのかぜ

VOL. 15

2003・春号



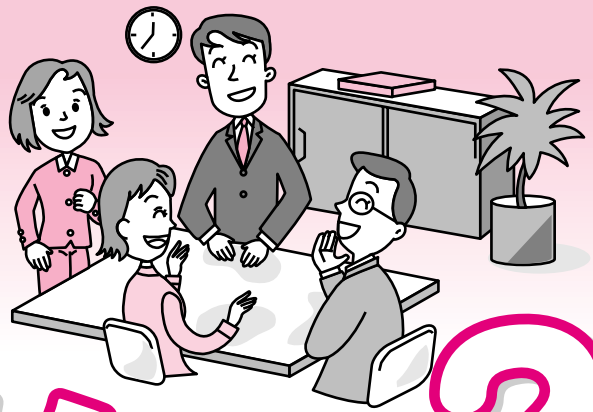
「特集」

「男」って??

「女」って??

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

「男」って?



「女」って?

これまで、女性ばかりで語られることが多かった「男女共同参画」。でも、男性には関係ないことなのではないでしょうか?

今回は、第一線で働いている男性3人に、男女共同参画社会を目指している現在についてどのようにみているのか、お話を伺いました。

仕事の取り組み方

編集委員 職場では「男だから」「女だから」ということで、与えられる仕事や評価に差がつくということはあるのでしょうか?

山崎さん 私の会社では、そういう違いは見受けられませんね。女だけど男より男らしい女性もいる(笑)。

山田さん 私の会社は、自分の掲げた目標をどれだけ達成できたかによって評価されるので、そういった差はまったくないと思います。目標を立てるときには、社員一人ひとりに「あなたは来期、何をするのか?」と面接をします。その面接で、目標を達成したときのポイントが決まる…。あとは、それがどれだけ達成されたか。それらをすべて数値化して評価する。その評価で給料も決まるから、男女ということでの差はないですね。

編集委員 そういう意味では、女性も、自分の掲げた目標に対しての責任を持つということですね。

山田さん そうですね。責任を持つと同時に、リスクも引き受けていることになりますね。

編集委員 では、男女で仕事の取り組み方に違いがあると感じたことは?

中村さん う〜ん。責任を持たずに逃げられるのは女性なのかなあ…。



なかむら しんいち
中村 慎一さん
(38歳・会社役員)
妻と長男(6歳)、次男(0歳)の4人家族

編集委員 ええ〜っ!

中村さん もちろん、全員というわけではないけど、最後は誰かに助けてもらっていることが多い。私がこれまでにきてきた中では、初めから責任を引き受けないようにしている女性が多いですね。

山田さん 先ほど「仕事の目標を立てる」という話をしましたが、その際にだいたいが違いが見られますね。男性は自分で目標を立てるんですが、女性は誰かが立ててくれるものだと思っている人が多い…。自分で目標を立てたとしても「これくらいいいです」って、そこそこ達成できる範囲で低めに目標を設定するんです。

編集委員 それは女性の一般的な傾向ですか?女性すべてがそうだというわけではないんですよね?

山田さん う〜ん。そうでない人はごくわずかなだね。低いなりに目標は達成するけど、ポイントが低いから評価は低い。女性の目標の立て方を見ていると、子どもに手がかからなくなったら急に高い目標を立てるなど、ずいぶん波があるなと思いますね。そういうのを見ると「出産・産休」という特別なものは、大きなハンディなのかなあという気もしますね。

あと、これは女性に限らず男性もなただけど、最近の若い社員は「そんな大変な思いをしてまで働きたくない」というのがあるんですよ。「私はそこそこの仕事しかしたくないので」とはっきり言うんです。

山崎さん なかなかひとくくりでは言えないですね。先ほども話しましたが、私の会社では、仕事に「男」「女」ということはまったく関係ない。「あなたは女だから、仕事はこの程度でいいですよ」というのは一切ない。ましてや「いくら頑張っても、女だから給料が上がらない」というものもない。

山田さん そう、頑張ったらちゃんと成果に出ますからね。男女関係なく、一個人と会社との契約だからね。どこまで達成できるか、どういうものを達成できるか。

編集委員 つまり、「男」「女」というよりも、個人がどう働かかっていう考え方ですね。

お茶の淹れ方一つで...

編集委員 ところで、以前は職場でのお茶汲みは女性がするものとされてましたけど...?

山崎さん 今は、女性だからってお茶汲みなんてさせないですよ。部長であれ、課長であれ、みんな自分で淹れます。女性社員や事務の人がお茶汲みしない企業は多いと思いますよ。

編集委員 そうなんですか？今でもお茶汲みは女性がやっているのかと思っていました。来客があった場合はどうなんですか？

山田さん 自分の部下や、若い社員が淹れます。お茶は女性が淹れるっていう概念はないですね。男がお茶淹れてもいい。でも、接遇の知識として、お茶を出すことを覚えたいと思っている女性社員もいるみたいですよ。

中村さん 「誰がお茶を淹れるのか」というこだわりよりも、そういうことに気づくということは観察能力が高いってことですよ。仕事上でどこにでも応用できるみたいですね。



やまだ ひでし
山田 英司さん
(41歳・会社員)
妻と2人家族

やまざき さとし
山崎 聡さん
(41歳・会社役員)
妻と長男(15歳)次男
(8歳)の4人家族



山崎さん お茶を上手に淹れる男性もいれば、上手に淹れられない女性もいる...なんかお茶っ葉がぐるぐる回っているようなお茶が出てきたりして(笑)

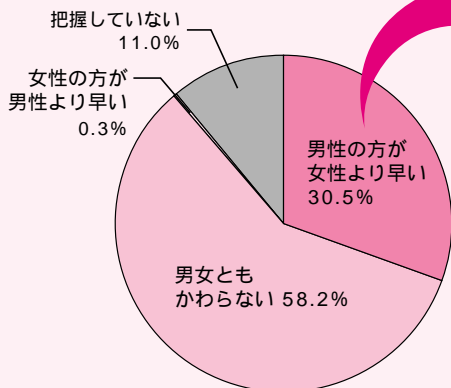
中村さん 「今晚、眠れなくなりそう」というお茶もありますね。

山崎さん 「男だから」「女だから」じゃないよね。うちの会社でも気がついた人が淹れる。「男だから淹れない」というのはない。「来ていただいてありがとうございました」と気持ちはお茶の出し方一つで出るでしょ。だからそういうことしない人は、意外と思いやりがなかったり、相手の心理が読み取れなかったりする。「男」「女」というよりも、人間としてどうあるのかっていうのが、大切ですよ。

全国の約9,000の事業所^(※1)に

「大卒標準労働者^(※2)の昇給・昇格に男女差があるか」を尋ねた結果は...

昇給・昇格に男女差があるか？



昇給・昇格に男女差がある理由(複数回答)

1 女性と男性では、おむねついている職種が異なるから	54.1%
2 女性の勤続年数が短いので、昇給・昇格の要件に該当する者がいない	33.9%
3 昇給・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない	28.4%
4 上位の職位になると出張、全国転勤があり、それを希望しない者の昇給・昇格は難しい	21.0%
5 女性が上位の職位を希望しない	19.7%
6 家庭責任がある者は、責任ある仕事につけられない	4.5%
7 女性は残業したらない	3.6%
8 その他	16.1%

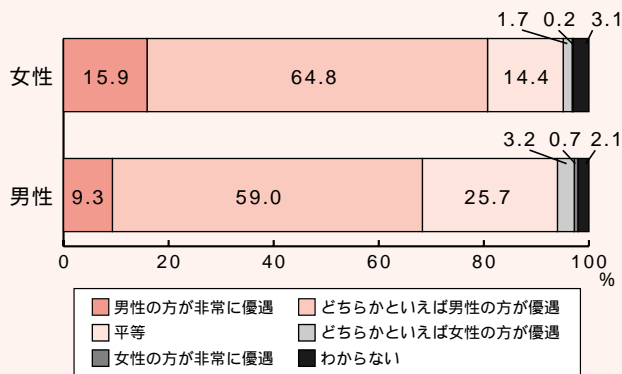
(1) 常用労働者30人以上を雇用している民営事業所のうちから、産業・規模別に層化して抽出
(2) 大学卒業後、直ちに企業に入社し、同一企業に継続勤務している労働者

「平成13年度女性雇用管理基本調査」 H13.10月 厚生労働省



社会全体における男女の地位の平等感

(有効回答数 3561人)



「男女共同参画社会に関する世論調査」 H14.7月 内閣府男女共同参画局

男として...

編集委員 子どもを育てる上で、「男」「女」を意識していることはありますか？

山崎さん うちが「男だからこうしなさい」というのは一切ないですね。

中村さん うちの場合「男はちゃんと守りなさい。お前は母さんを守りなさい。」と言っています。男は守るべきものために、体力的にも、精神的にも、経済的にも強くなってほしいと思っています。

編集委員 「強くなる」とは、「男の子は、泣いちゃだめ」ってことですか？

中村さん いや、泣くのは構わないと思ってます。私自身「強い父親になれ。強い父親がいるから、母親は安心してられる。父親が一家の大黒柱だ」と、厳しく育てられました。

山崎さん うちも厳しかったねえ。

編集委員 「男だから強くなれ」と言われて、子供心に「変だな」と思ったり、辛い、苦しいと感じたりしたことはないですか？

中村さん いやあ、特にないですね。うちの父親は星一徹みたいな人だったんですけど、「いつかこの親父を追い越してやろう」と思っていました(笑)ですから、私の場合、「男だから」と言われるのは、良いプレッシャーだったし、今もそれは変わりません。

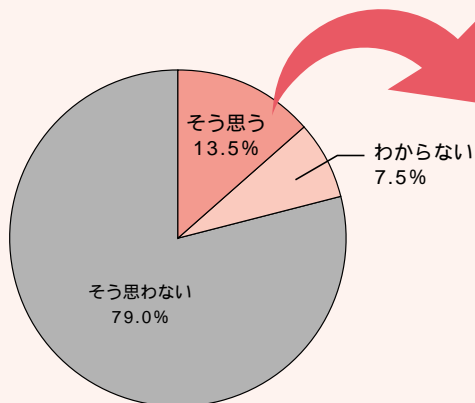
山崎さん 「男は仕事をするもの、だから勉強しなければならんし、友達もたくさんつくらねばならん」という「男として」の暗黙の目標があるから、頑張ることができたんじゃないかな。まあ、これは既定の常識かもしれないけど...

中村さん 目標にしていたことが実現できたら嬉しいですね。

編集委員 私たちは、「女だからこうしなさい、これはしちやダメ」と言われて嫌な思いをしたことがあるので、男性も「男だから」ということで同じような経験があるのではと考えていたんですが、今のお話だと、皆さんにとってはそれはプラスに働いたということなんですね。

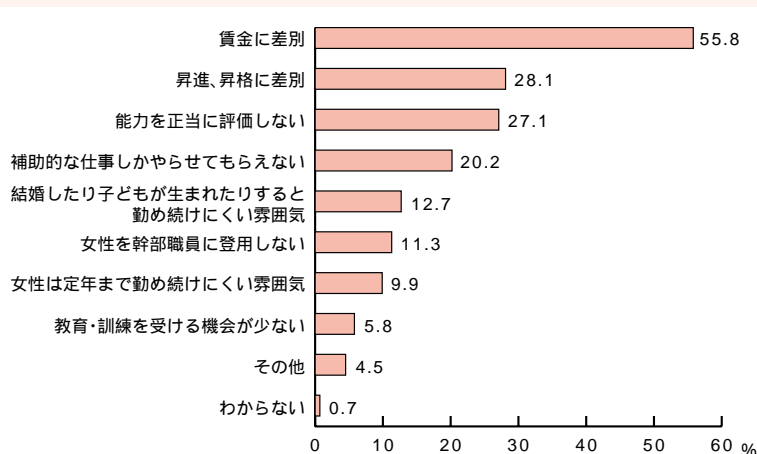
今の職場では、仕事の内容、待遇面で女性は男性に比べて、不当に差別されていると思いますか？

(有効回答数 2170人)



「男女共同参画社会に関する世論調査」
H14.7月 内閣府男女共同参画局

女性が不当に差別されている具体的な内容(複数回答)



チャンスは平等

編集委員 では、これまでに「男性差別だ」と感じたことってありますか？

3人 特にないですねえ。

編集委員 逆に「女性差別だ」「女のくせに」と思ったことは...？

山崎さん 「女のくせに」と思うことは、最近ないですね。会社の中でも聞かないですよ。「女のくせに、なにでしゃばっているんだ」なんてない。

山田さん 男も女も関係ない。「もっとやれよ、もっとでしゃばれ」だよ。

編集委員 女性も積極的に意見を言いたいけれど、周りを気にして言えないということもあると思いますが...

中村さん やりたいこと、変えたいと思っていることがあるんなら、公の場で言わないと。陰で言っても何も変わらない。それに、言ったとしても（発言に対する）義務と責任から逃げるんだったら、誰も聞いてくれないですよ。まあ、これは男でも一緒だけど。そういえば、（森市長との）タウンミーティングでは、女性の出席は少なかったですね。チャンスは、男女でかなり平等になっているのに、それが活かされてない。

山田さん やりたいことがあるのに、自分が何も行動しないで、それで「何もできない」と文句を言うのは、本末転倒でしょう。やろうと努力しない本人が悪いですよ。義務と権利は男女で平等のはずですよ。男性であれ女性であれ、義務を果たせば権利もついてくる。能力があれば何にだってなれる。

山崎さん 会社でも、決定権を与えられた人は、それなりの能力があるからであって、女だから与えないという話ではない。

中村さん 義務を果たし、能力を示した人に権利が与えられる。そこには女性、男性って関係ない。先に権利をくれて主張する人も多いけど、それはおかしいんじゃない？せっかくチャンスが平等になってきているんだから、男女ともにもっと活用すればいいんじゃないかな。

山崎さん 男でも女でも、やりたいことにトライできる、選択の可能性があるという環境を作らないといけない。結局、それが「男女共同参画」ってことになるのでは？

編集委員 そうですよ。その人個人が本来持っている資質、能力は、男女関係なく発揮されるべきであって、「男」「女」というだけで選択の幅が狭くなるのは問題ですよ。そういうことをなくすには、今、山崎さんが言われたように、「男女共同参画」という環境を整えることが大事ですよ。

山田さん 男女とも同じように選択肢があることは必要。選択肢がないというのは、致命的な問題だと思いますよ。

編集委員 「男女共同参画」というと、「何もかも、男女一緒にするの!？」と誤解されがちですが、そういうことなく、男女とも均等にチャンスを与えよう、結果だけでなく、責任も共に分かち合おうというものです。

山崎さん 「男女共同参画」というのはお互いの理解が必要だと思うし、仕事にしても「男だから」「女だから」っていうのではなく、個人がどう働くのか、意欲はどこにあるのかの問題だと思う。結局、「男」「女」じゃなくて「個人」ということになるのかな。

お話を伺って、繰り返し出てきた言葉は「『男』『女』というよりも、その人個人がどうあるか」ということでした。

「男女共同参画」とは、何もかも男女で一緒にすることを目指しているのではなく、男女ともに、等しくチャンスを与えよう、それを活かすための環境を整えようということです。その実現のためには「それなりの義務も果たすべき」と、そして、やりたいことがあるなら「女性ももっとでしゃばれ、能力を示せ」と、厳しい意見もありました。私たちは、これは叱咤激励の言葉だと感じました。

男性も女性も、自分を見つめ、そして行動を起こさなければ何も変わっていきません。“自分勝手”ではなく、“自分らしく”生きることをお互いに理解し、尊重し、協力し合うことが、男女ともに生きやすい社会づくりにつながるのではないのでしょうか。それは、難しいことではないと思います。



男女共同参画に関する研修参加報告

富山市では、今年度から、男女共同参画に関する自主学習支援として、全国会議等に参加される市民の方に対し、参加費用の一部補助を行っています。

今年度は、この制度を利用して、お2人の方が全国会議に参加されました。



日本女性会議2002 あおもり

H14.10.4 ~ 5

参加者 木村 京子さん(市内在住)

1日目は10の分科会が開かれ、私は「高齢社会を安心して生きていくために～共助としてのNPOの役割～」に参加した。高齢問題は女性問題と言われて久しい。深刻な少子化問題とあいまって介護の社会化が叫ばれ、地



域には障害者や子どもを含む多機能の託老所や、要支援・ひとり暮らしの高齢者を支える仕組みづくりが求められている。会場からは、NPO

の具体的なノウハウなどの質問がたくさん寄せられ『自分たちの社会は自分たちの手で...』という積極的な意気込みが伝わってきた。

高齢問題だけでなく、環境、労働、子育てなどを視野に入れたよりよい社会を築いていくためには、市民・住民の目線で新しい時代の新しい社会を担おうとするNPOの存在は、ますます重要になってくる。富山市でもNPOを行政のパートナーとして位置付け、その育成・醸成に目を向けて欲しいと願うとともに、私たちは一人ひとりが社会の担い手であることを自覚し、傍観者であってはならないと強く感じた。

全国男女共同参画宣言都市サミット in すぎなみ

H14.10.3

参加者 宝田 成子さん(市内在住)

内閣府男女共同参画局の坂東局長による「男女共同参画に関する最近の動向」の報告のあと、「文壇最強の子育てパパ」鈴木光司氏の基調講演があった。鈴木氏は、子育てに挑戦することで作家デビューを果たし、その後も子どもからエネルギーをもらっていること、世の中の父親たちがもっと子育てとかかわりを持つためにも、企業や社会が環境作りを考えていく必要があること、そして「新しい未来に対応できるよう、家族一人ひとりが意識を変えていかねばならない」と話された。

基調講演後に行われたシンポジウムは、森市長を含む6人の首長によるパネルディスカッション。男女共同参画宣言都市の首長であるだけに、それぞれ男女共同参画についての認識も深く、施策にも各市の独自性を見るこ

とができた。森市長は「世代間で考え方に違いはあるが、啓発活動を通じて、一人ひとりが男女共同参画に対する気付きを持ってもらいたい」行政が受け皿を作り、家庭を支えあう意識を具体的なことから一つ一つ高めていくこと」などを話された。また「私も、家庭では参画しています。」と、会場の男性方に『家事労働のすすめ』を強調されていた。



男女共同参画社会づくり

作文コンクール



男女が対等なパートナーとして、互いにその人権を尊重しつつ、責任をともに分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に、男女共同参画に関する作文を募集しましたところ、数多くの作品が寄せられました。

ここに、入賞作品をご紹介します。

(敬称略)



「男女共同参画とやま市民フェスティバル」において、表彰・発表が行われました。

優秀作品 (応募総数 90点)

最優秀賞 「身近な男女平等から」

大泉中学校 1年 山本 紫乃

優秀賞 「家の中から見えてきたこと」

三成中学校 1年 石川 慧

「我が家の男女共同参画社会」

東部中学校 2年 柿山純一郎

「個性や能力を發揮できる社会へ」

東部中学校 2年 松井愛悠美

「夢の実現を目指して」

山室中学校 2年 松井 雄平

最優秀賞

身近な男女平等から

大泉中学校 1年 山本 紫乃

男女平等という言葉から、私は二つの出来事を思い出した。一つは、この夏に家族で高山に行ったときのことだ。高山には、遠足などで何回か行った。そこで見かける光景に、古い町並みを人力車で案内するという観光がある。昔の服装で、大人を乗せた大きな人力車を引くのは、力のいる仕事だと思いが、今回初めて、女の人が二人のお客さんに乗せて引いているのを見て驚いた。「あんなに重そうなのに、笑顔で説明をしながら引いているなんてすごいな。」と感心した。祖母も「こんなところにまで女がいるなんて」と、とてもびっくりした様子だった。

もう一つは、小学校のときに研究会の準備で荷物運びをしたことである。先生は、取りに来た人が男子でも女子でも荷物の重さや大きさに区別することはしなかった。私も大きな机を頼まれたら、「よし、やるぞ」と張り切った覚えがある。しかし中学校では、荷物運びでは初めから「男子」と声がかかり、女子には役割がないことがよくある。確かに、男子の方が力があるとは思いますが、女子でも二人で協力すれば力仕事もたくさんできるし、人力車のように、一人でも力を発揮する人もいる。「女子も呼んでくればいいのに。」と、最近よく思うようになった。私は動物にとっても興味があり、将来は動物園で働きたいと思っている。動物園に行くと、自然と飼育係に目が行く。どんなことをしているのだろうと思っで見ていると、大量のえさを重そうに運んでいたり、汗だくで飼育室の掃除をしたりしている。また、病気になるような動物を夜通し見守るなど、動物たちの健康管理にも細かく気を配っている。動物から見れば、飼育係が男か女かなどは関係ない。どんな種類の仕事もしなくてはいけないんだなと思う。

男女平等というのは、どのような仕事も区別なく行うことだろうと思う。しかし、一人の人間としてみれば、得意なこと苦手なこともある。得意なことを認め、苦手なことを助けることに、男女の区別は関係がない。「男の方が」とか、女だから」という言い方ではなく、「得意なことを出し合って協力し合う」と考えれば、どんなことでもうまくいくのではないかと思う。

私も自分の得意なこと何か、どんなことで社会に役立っていけるかを、これからの生活の中でよく考えていきたい。

~ Information ~

「あいのかぜ ~ Lovely Wind ~」第16号からの新・編集委員を募集します

1. 応募資格 市内在住の20歳以上の方で、平成15・16年度の2年間、編集委員として活動して下さる方
編集会議に常時参加できる方 * 1号につき編集会議は10回程度(原則として平日の日中に開催)
2. 募集人員 3人(応募者が多数の場合は選考)
3. 任 期 委嘱した日から平成17年3月31日まで
4. 仕事内容 企画、取材、原稿作成、レイアウト、校正 * 1号発行ごとに謝礼(35,000円)をお渡しします。ただし交通費は支給しません。
* 取材などの移動は、基本的に各自でお願いすることになります。
5. 交流誌概要 年2回発行 * 町内会班回覧のほか、地区センターなど市出先機関、県内外の交流都市へ配布
6. 応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入し、直接またはFAX、郵送、E-Mailで下記まで。
応募用紙は、青年女性課、女性交流センター、各地区センターにあります。

平成15年4月21日(月)必着

●問い合わせ・送付先●

〒930 8510 富山市新桜町7番38号 富山市青年女性課
TEL 076-443-2051 / FAX 076-443-2176
E-Mail seinenjyosei-01@city.toyama.toyama.jp

ありがとうございました

今号をもって、私たち編集委員の任期は終了します。
長い間、本当にありがとうございました。
これからも「あいのかぜ」を見守っててください。



編集後記

男性も女性も共に自分らしく輝いて生きていくには、まだまだ解決しなければならない問題が山積んでいます。“あいのかぜ編集委員”として得たものを、そんな社会に少しでも還元できれば、と思うと同時に、これからも、もっともっと男女共同参画に敏感な視点を持って、諸問題に取り組んでいきたいと思えます。

高沢 美和

今回でとうとう最後の仕事となりました。今後も、有償・無償に関わらず、なんらかの形で社会に関わっていくこととなると思いますが、今回のインタビューを終えて、改めて我が身を正さなければ、という思いです。

2年はあっという間でした。今までありがとうございました。

中村 里恵子

“あいのかぜ”編集の仕事も最後となりました。企画を立てそれにそって仕事を進めながらも、思惑どおりにいかず、「どうなるかな...」と、内心思うことも度々ありました。でも、会議を重ねるうちにそれなりに道も見え、満足できる結果となり、何事も早急に結論を出したがる私にとって、よい勉強になりました。「少しずつ、でも諦めずに」迷った時、或いは悩み多い時などこの言葉を思い出すことにします。

西谷 明美

タイトルの“あいのかぜ”は、「私(英語でI)の風」、「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」、「愛の風」を表しています。

Cover「仲良し」AKEMIさんの作品

全部、円だけで描いてみたくになりました。頭の上に浮かんでいるのは、いろいろな想いです。自分の想いも、相手の想いも大切にすれば、仲良くできるでしょうね。

編集・発行 富山市役所市民生活部青年女性課
〒930 8510 富山市新桜町7番38号 Tel. 076 443 2051
Fax. 076 443 2176

“あいのかぜ”へのご意見・ご感想をお待ちしております。
[宛先] 〒930 8510 富山市青年女性課(住所記載不要)
[アドレス] seinenjyosei-01@city.toyama.toyama.jp